

1. 景観とは

「景観」は、私たちを取り巻く環境の見え方、「景色、眺め、風景」のことで、それぞれの地域において、異なる自然条件や歴史、文化等をもとに、人々のさまざまな営みが積み重なって造られています。

平成16年(2004)に施行された景観法(第2条)では、良好な景観の基本理念について、次のように解説しています。

1 良好な景観は

- (1) 美しく、風格のある国土の形成と潤いのある豊かな生活環境の創造に不可欠なものである。
- (2) 国民共通の資産である。
- (3) 地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動等との調和により形成されるものである。
- (4) 地域の固有の特性と密接に関連するものである。
- (5) 観光その他の地域間の交流の促進に大きな役割を担うものである。

2 良好な景観の形成は、現にある良好な景観を保全することのみならず、新たに良好な景観を創出することを含むものである。

良好な景観は、地域の個性や特色を特徴づけるものであり、人々の地域に対する愛着やふるさと意識を育みます。そして、身の回りの良好な景観は、潤いある魅力的で豊かな生活環境の創出に貢献します。さらに、地域固有の良好な景観や美しく個性的な景観は、観光をはじめ、国内や世界各地との交流を活発にする役割を担っていきます。

■ 「景観」を把握するモデル

景観は、下の表及び図に示す4つの要素、①視点、②視点場、③視対象、④対象場によって構成されます。「①視点」は見る人、「②視点場」は見る人がいる周囲の空間、「③視対象」は人の目を引きつけたり、眺められたりするモノ、「④対象場」は眺められるモノ(視対象)がある周囲の空間を示し、「見る－見られる」の関係によって成り立っています。

視点周囲の環境や見るものとの遠近感など、視点場の違いによって視対象の見え方が変わります。このため、良好な景観のためには、視対象を良好に保つだけでなく、視点場の保全と整備も重要になります。特に人が往来する道路や歩道、展望所など、視点の数が多い視点場からの景観は、十分な配慮が必要です。

表1. 景観構成要素とは

景観構成要素	要素の意味	例
① 視点	視点は景観を見る人間自体を指しています。	市民が見る、居住者が見る、観光客が見るなど
② 視点場	景観を見る場合の視点の存在する「場」を意味し、視点近傍の空間を表しています。	道路歩道部、河岸、山頂、ビルの屋上、住宅の中など
③ 視対象	得られている景観の中で、強い影響力を持つ対象を意味しています。	まち並みの景観、道路の景観、建築物の景観など
④ 対象場	眺められている景観から、視点場や主対象を除いた全ての対象を意味しています。	住宅地、商業地、工業地、自然地、農業地域など

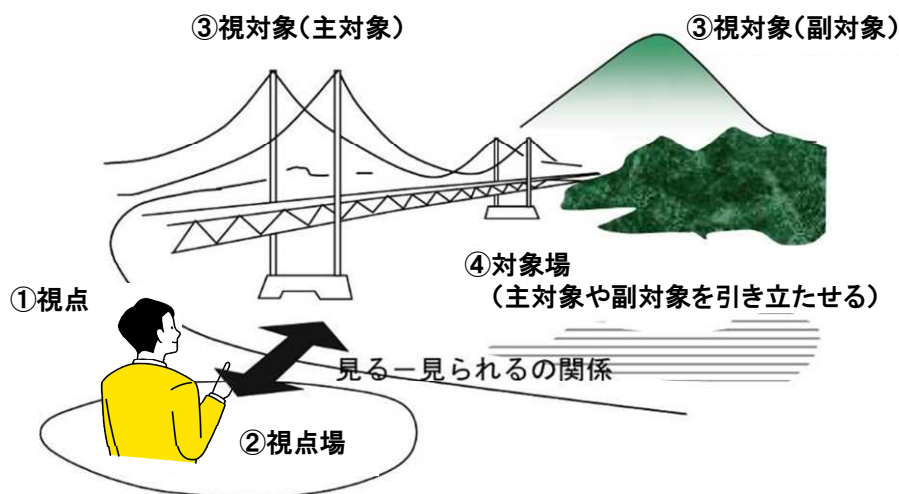


図1. 景観把握モデル図(視点場と視対象の関係)